学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

1.　外国語学部　教育 1-1
2.　総合国際学研究科　教育 2-1

外国語学部

Ⅰ　教育水準 ..... 教育 1-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 教育 1-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「基本的組織の編成」については、７課程 26 専攻語と３講座を組合せ、言語教育、地域教育、専修教育が展開されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、２件の文部科学省特色ある大学教育支援プログラム「26 言語情報リテラシー教育プログラム」及び「生きた言語修得のための 26 言語・語劇支援」を活用するなど、改善に向けて三つの取組を進めているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2.　教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「教育課程の編成」については、教育課程を専門科目、総合科目及び自由科目として編成し、総合科目を教養教育として位置付け、ディシプリンの教育と統合させているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、国内外の他大学への派遣、インターン

シップの実施等が行われている他に、特化コースによる高度専門職業人の養成、科目等履修生や研究生の受入れを積極的に行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義、演習、実習等の授業形態を適宜組み合せているほか、特に少人数教育とネイティヴ・スピーカーによる授業を重視しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、オフィスアワーや電子メール、並びに独自開発した e-learning システムの活用を行っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準を上回る

［判断理由］

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、単位修得率が高く、学士号の取得率（卒業率）も 80%と高い水準にあり、また、外部検定試験の成績も高く、学生が様々な賞を受賞しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、平成 19 年 12 月実施の授業評価アンケート結果と平成 20 年 1 月実施の「卒業予定者大学満足度調査」結果のいずれにおいても授業内容のレベル、総合評価等が 80%前後の高スコアとなっているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「卒業（修了）後の進路の状況」については、平成 19 年度においては就職率が 75%、進学率が 11%であり、就職の場合、国際的に事業展開をしている様々な民間企業にその多くが就職しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年 12 月実施の就職先企業等に対するアンケートで高スコアとなっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、外国語学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、外国語学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II　質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

［判断理由］

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 3 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 1 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

総合国際学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 2-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 2-5

※当該組織は、平成 21 年度に「地域文化研究科」より改組された。

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「基本的組織の編成」については、教育目的を踏まえて平成 18 年度に改組し、先端的な専門研究者養成と高度専門職業人養成という目的別の専攻編成がなされて期待される教育の提供が可能になっているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、大学院自己点検・評価委員会の自己点検評価結果を踏まえ、大学院企画運営室、大学院協議会及び前期課程各専攻会議と後期課程各教員会議等が教育課程や教育方法の検討を行っていることや、教員の教育活動データの収集と自己点検評価、活発なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を教育内容、教育方法の改善に向けた三つの体制としているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、地域文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、地域文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における総合国際学研究科の判定として確定する。

2.　教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程では、教育目的を考慮して、教育

課程を専攻専門科目、専攻関連科目、専門特殊研究、学術表現演習の四つに編成し、後期課程では、学問領域ごとに編成された共通科目と各々の地域ごとに編成された科目によって教育課程を編成しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他大学との単位互換制度や連携講座を開設するとともに、インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）等の海外派遣制度を活用しており、さらに、近年需要の多い領域からの要請に対応するために教育課程を編成しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、地域文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、地域文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における総合国際学研究科の判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、少人数教育を徹底し、論文指導については複数教員による指導体制が敷かれており、さらに、進捗状況の点検もなされているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、オフィスアワーや電子メールを通じ、個々の学生に応じた学習相談がなされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、地域文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、地域文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、判定を以下の

とおり変更し、第 1 期中期目標期間における総合国際学研究科の判定として確定する。

［判定］

期待される水準を上回る

［判断理由］

「主体的な学習を促す取組」については、若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）「非英語圏ヨーロッパ諸地域に関する人文学研究者養成の国際連携体制構築」及び組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「国際連携による若手アジア・アフリカ地域研究者の海外派遣プログラム」「国際連携による非英語圏ヨーロッパ諸地域に関する若手人文学研究者海外派遣プログラム」による博士後期課程の学生の交流を幅広く実践し、さらにその実績数である海外調査研究に従事する博士後期課程の学生数が、平成 19 年度 13 名、平成 20 年度 25 名、平成 21 年度 45 名、と大幅に増加しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、総合国際学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、総合国際学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士前期課程の学位取得率が平成 19 年度で 63％であり、良好な状況にある。また、大学院博士後期課程の学位取得率も平均 22％であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、「大学院授業アンケート」（平成 19 年 12 月実施：別添資料２-５「地域文化研究科における授業評価アンケート結果（出典：東京外国語大学地域文化研究科　平成 19 年度「授業評価アンケート」結果）」）と「大学院修了予定者大学満足度調査」（平成 20 年 1 月実施：別添資料２-６「大学院修了予定者大学満足度調査の結果（出典：東京外国語大学地域文化研究科、平成 19 年度「大学院修了予定者大学満足度調査」））の結果、研究指導・論文指導の点で「良い」が 80％強、専門科目、表現演習科目、授業全体の充実度の点で「良い」が 70％前後のスコアを示しているなどの優れた

成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。
以上の点について、地域文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、地域文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における総合国際学研究科の判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

期待される水準にある

［判断理由］

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士前期課程では、平成 19 年度の就職率が 27%、進学率が 27%、また、大学院博士後期課程では平成 19 年度の就職率が 100%になっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。
「関係者からの評価」については、就職先企業等アンケート調査（平成 19 年 12 月実施）の結果、語学力と国際感覚、論理的思考力、情報収集・分析力、専門知識等の点で「良い」が 80%以上のスコアとなっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。
以上の点について、地域文化研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、地域文化研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における総合国際学研究科の判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

［判定］

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

［判断理由］

「大きく改善、向上している」と判断された事例が３件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。